

|            |  |
|------------|--|
| 学校教育目標     | 心身ともにすこやかで、たくましい子どもの育成 ～ 明るく 美しく 礼儀正しい学校 ～ |
| 《本年度の重点目標》 |  |
| 《重点目標1》    | 教師の授業力を向上(人材育成)させるとともに、児童の学力・体力の向上を図る。     |
| 《重点目標2》    | いじめのない、安心・安全な学校づくりに努める。                    |
| 《重点目標3》    | 開かれた学校づくりと、地域・保護者・学校の密な連携に努める。             |

◆記入にあたっての留意事項

- 取組については、各学校の重点目標達成のための方策に応じて設定すること。
- 「取組」「評価項目」「評価項目についての重点的取組」を設定する際には、次の6点をいずれかに必ず位置づけること。
  - ①学力向上に関する取組
  - ②体力向上に関する取組
  - ③心の育ちに関する取組
  - ④いじめ問題解決に関する取組
  - ⑤特別支援教育推進に関する取組
  - ⑥あいさつ日本一に関する取組
- 小・中学校においては、①学力向上に関する取組、②体力向上に関する取組、③心の育ちに関する取組の部分の記述について、スクールプランと整合性を取る。
- 評価の例 A…目標を十分に達成できた B…目標をほぼ達成できた C…あと少しで目標が達成できた D…目標達成までいかなかった

| 取組                 | 評価項目  | 評価項目についての重点的取組  | 評価 | ○成果と◆次年度の改善点   |
|--------------------|---|---|----|--|
| 学力向上に関する取組         | 【授業改善①】<br>◇<児童質問紙(47)55>「授業では、先生から示される課題や、学級やグループの中で、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思いますか」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加                    | ○算数科を中心に、少人数・専科指導講師や学習支援教諭、教務主任等を配置し、よりきめ細やかな授業が行えるようサポート体制を充実する。<br><br>○管理職や教務主任等が毎日校内巡視を行い、授業見学をし、必要に応じて授業改善につながる助言を行う。また、学期末に児童アンケートをとり、児童の学びの実態を把握するようにする。                 | A  | 【授業改善①】<br>○計画表を作成し、職員全体で共用することによって、無駄なく少人数・専科指導を行うことができた。少人数・専科担当の空き時間を担任が把握しやすく、学級に人員が必要なときに、声をかけやすかった。<br>○1時間の授業の流れを「まとめ」を起点として考える授業構想の立て方を周知し、全職員が行った。その結果、学習の流れが明確になり、ぶれない授業できている。<br>○<学期末児童質問紙(47)55>で肯定的な回答をした児童の割合が100%で、1学期よりも8ポイント上回る結果となり、目標を達成することができた。受け身の授業ではなく、児童が「自分たちでできた」という達成感をもてるような、児童主体の授業を創ることができた。 |
|                    | 【授業改善②】<br>◇<児童質問紙(58)67>「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いていたこととは難しいと思いますか。」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加                                      | ○1単位時間内に「話し合う活動」と「書く活動」を必ず行い、「書き慣れ」「話し慣れ」「聞き慣れ」ができるようにする。   | B  | 【授業改善②】<br>○<学期末児童質問紙(58)67>で肯定的な回答をした児童の割合が4%であり、目標を達成することができた。<br>◆今後も「対話」を通して、言葉の力を身に付け、表現することができるようにしていく必要がある。<br>◆少人数での話し合いや自分の思いや考えを書き表す時間を意識的に設定したことがよかったと考えるので、今後も継続していくようにする。   |
|                    | 【授業改善③】<br>◇<児童質問紙(54)62>「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加   | ○板書には、必ず「めあて」、「まとめ」と「振り返り」を書き、授業の終末は、「まとめ」と「振り返り」の5分間を確保する。振り返りで書かせたものには必ず目を通し、適切なコメント(評価)を返すようにする。児童が書いたノートや掲示物にも積極的にコメントを返し、児童の励ましができるようにする。                                  | B  | 【授業改善③】<br>○<学期末児童質問紙(54)62>で肯定的な回答をした児童の割合が100%であり、1学期よりも8ポイント上回る結果となり、目標を達成することができた。<br>◆今後も「終りの5分の確保」を目指し、教材研究を丁寧に行い、学習展開を工夫して十分な振り返りができるようにする。   |
|                    | 【補充学習】<br>◇全校一斉のチャレンジタイム(朝・国語タイム、昼・算数タイム)の実施率の増加  | ○5校時の開始前に基礎的な計算等を繰り返し行う場(「算数チャレンジタイム」)を設け、確実に力がつくようにする。→基礎基本定着問題集等の活用<br>○朝自習時には、毎日「国語チャレンジタイム」を設け、読書や漢字の読み書き・音読・視写・プリント学習等を児童の実態に応じて取り組ませ、ことばの力が高まるようにする。→高学年には新聞ワーク・漢字ppt等の活用 | A  | ○全校一斉に取り組むという意識が定着し、児童も集中して取り組むことができた。<br>○昼のチャレンジタイムは、担任外(管理職・事務職員・栄養職員等)のサポート体制を強化し、児童一人一人のニーズに合った指導を計画的・効率的に行えた。<br>○朝のチャレンジタイムは職朝が週二回あることもあり、教師についての充実した指導になっていたとはいえなかったため、3学期は職朝を終りに替えることで、内容教科と指導の徹底を図った。<br>○よりきめ細かな指導をしていくために、昼休みに校長が「ことば」、教頭が「けいさん」の道場をひらき、各学年の実態に応じて補充学習の場を設けたことで、学習への意欲が高まり、基礎基本の定着のための一助となった。    |
| 体力向上に関する取組         | 【家庭学習】<br>◇<児童質問紙(22)30>「家で、学校の宿題をしていますか。」について、「している」と回答する子の割合の増加<br>◇<児童質問紙(14)15>学校の授業時間以外に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。について、60分以上行う割合の増加 | ○子どもの実態に応じて、学年×10分を目安にした、調べたり、文章を書いたりする宿題を課す。また、宿題以外の学習方法や学習内容の具体例を示し自主学習を盛り込んだ家庭学習の充実を図る。<br>○してきた宿題のていねいな評価(まるつけ、コメント)と、「宿題をして良かった」と思える確かめ(豆テスト等)を行う。                         | B  | ○<児童質問紙(22)30>で「している」と回答した児童の割合は100%であった。目標を達成することができた。<br>◆宿題や家庭学習については「足立小 家庭学習の手引き」を作成し、家庭へ配布することによって、家庭での学習の大切さを保護者に理解してもらおうことができるようにする。<br>◆宿題をはじめとする「家庭学習」の大切さは、様々な形で保護者に啓発している。しかし、「子ども任せ」になっている家庭も少なくない。継続した取組が必要である。  |
|                    | 【授業改善①】<br>◇<児童質問紙(18)>「ふだんの体育の授業では、授業の始めに授業の目標(めあて・ねらい)が示されている。」について、肯定的な回答をした児童の割合の増加   | ○北九州体力向上プログラムを参考に、体育科授業の改善を行う。<br>○導入～展開～まとめへと、一貫した流れを定着させ、「足立小体育科スタンダード」を確立する。<br>○体育館や運動場の学習用具を整備したり学習ノートを作ったりするなどして、めあてを明示し振り返りができる環境を整える。<br>○体力テストの適切な実施・測定のための研修会を実施する。   | B  | ○他の教科同様、めあての設定、少人数による話し合い、まとめや振り返り等を実施し、体育科の授業づくりについても改善が見られる。<br>◆「小学校体育授業パワーアップ研修会」に参加した教諭を中心に、体育科授業づくりの研修を行い、より充実した体育科学習を目指す。<br>◆「体育授業パワーアッププログラム」に基づき、児童の運動量を効率的に増やすための取組を今後も継続して取り組む必要がある。   |
| 関心する育ち組            | 【運動習慣】<br>◇一校一取組運動として、年間を通して2週に1回全校で取り組んだ回数割合の増加  | ○縦割りグループによる「大なわ」の練習を継続的に続ける。運動委員会から提案し、取り組む。<br>○持久走記録会に向け、中休みにランニングタイムを設け、全校一斉に決められた距離を毎日走る活動に取り組む。  | A  | ○「縦割りなわとびタイム」の時間には、全員外に出て、楽しみながら体を動かすことができた。<br>○ランニングタイムを実施し、持久力・走力を高める運動にも力を入れる。その延長として、保護者公開の持久走記録会を設けた。達成感を味わわせることができた。<br>◆天候が悪い場合は中止ではなく、延期やなわとびに代わる活動を行うよう内容を工夫する。<br>◆大なわ大会と持久走記録会の両方とも3学期に実施したため、次年度は行事を見直し、子どもの負担を軽減する必要がある。   |
|                    | ◇確かな人権感覚の育成を図るとともに、いじめの未然防止を計画的に実施  | ○いじめアンケートや、各学期末の児童アンケート等を実施し、その回答内容を精査して、必要に応じて聞き取りや学級指導にあたるようにして、早期発見・早期解決に努める。<br>○道徳や特別活動をはじめ、全教育活動をととして、いじめは絶対にならない、させないことを機会あることに指導する。                                     | B  | ◆教師の目の届かないところで、決まりが守れていなかったり、言葉遣いが乱暴になったりする児童がいる。必要に応じて個別に、全体に指導を継続する。<br>◆ルールや規律を守ることのポイントが低かった。今後も、指導を徹底していく。  |
| に修学関・校す人組る材織取育と組成研 | ◇子どもとのコミュニケーションづくり及び好ましい人間関係づくりを進める。  | ○学年、学級の実態に応じて、年間6時間の授業を確実に実施し、子どもの自尊感情を高め、自分の気持ちをコントロールするとともに、友だちと互いのよさを認め合い、協力できる関係をつくる。<br>○SCによる「対人スキルアップ研修」を行い、系統的なプログラム学習である「北九州子どもつながりプログラム」を取り上げて、教職員の共通理解を深める。          | B  | ○「対人スキルアップ研修」を行うことで、教師自身の「心の持ち方」を意識することができた。<br>○人権に関する授業参観において「子どもつながりプログラム」を実施することができた。友達同士のトラブルも減少している。<br>◆トラブルは減少傾向にあるが、生徒指導上の諸問題がなくなったわけではない。今後も、引き続き指導する。   |
|                    | ○若年研修を定期的に計画し、毎月1回以上実施する。   | ○本年度より算数科を研究主題に掲げ、全職員で学力向上に向けた取組を行う。<br>○導入～展開～まとめへと、一貫した流れを定着させ、「足立小算数科スタンダード」を確立する。<br>○主題推進委員会で研修の目的・時期・内容・講師等について審議し、計画的に設定するとともに、全職員で年間計画等について共通理解する。                      | B  | ○主題研修については、計画的に研究を進めることができた。若年研修としても取り組み、指導案検討や模擬授業を行うことができた。<br>◆主題研修に取り組む中で、目指す方向性や手立てのあり方など、課題も多い。全職員でじっくり振り返り、次年度へつなげていくようにする。   |
| 開かれた取組校            | ○若年研修を定期的に計画し、毎月1回以上実施する。   | ○教職員の使命、学級経営、道徳・人権教育、生徒指導・保護者対応等、様々な課題に対する適切なテーマを設定し、管理職や先輩教師に、質問したり、指導を受けたりする場を設ける。  | B  | ○若年の授業研究会や研修会の場を設け、よりよい授業づくりに努めた結果、ずいぶん意識が高まった。<br>◆若年研修については、よりよいものになるよう、OJTの観点を取り入れた研修を行うことができるようにする。<br>◆研修内容に重複したものや疎になったものがあった。十分な内容の検討を図り、効率のよい充実した年間研修計画を立てるようにする。  |
|                    | ○「あいさつ日本一」が達成できるように、日々の継続的な取組を行う。   | ○6年生が中心となり、毎日輪番で校門(正門・裏門)付近であいさつ運動に取り組む。  | A  | ○学年末教師用アンケート(5段階評価)では、あいさつや正しい言葉づかいができています。また、異学年と交流したり、給食を残さずに食べたりすることについて、3ポイントを超えることができた。<br>○はきはきとした声であいさつができるようになってきた。児童のあいさつが日常化してきた。年度の後半は、「あいさつ運動」に5年生が加わり、一層ひろがりが見られた。<br>◆校内だけでなく、地域の方々に対しても、気持ちのよいあいさつを進んでできるように引き続き指導を行う。  |
| 開かれた取組校            | ○保護者、地域と情報を共有し、連携を推進する。   | ○学年・学校通信、学校ホームページ等を通して情報発信を行う。<br>○学校ホームページを毎月更新する。<br>○授業参観や学習発表会、学校開放週間を通して、情報発信を行う。<br>○地域の行事や祭りなどへの積極的な参加を促す。   | A  | ○地域、PTAの行事については、数多くの児童や教職員が参加している。<br>○学年・学校通信の発信や、ホームページの更新を定期的に行うことができた。町内会を通じて校区200世帯へも学校通信を配布した。学校通信は月に2回発行し、学校の「いま」を伝え続けた。<br>○学校開放週間には、学習発表会へ多くの保護者や地域の方の参観があり、学校の活動を見ながら理解していただく機会となった。   |